

生命の歌声が聞こえる水と緑の薫る川

第9期 野川流域連絡会 活動記録



令和4年3月

野川流域連絡会

目次

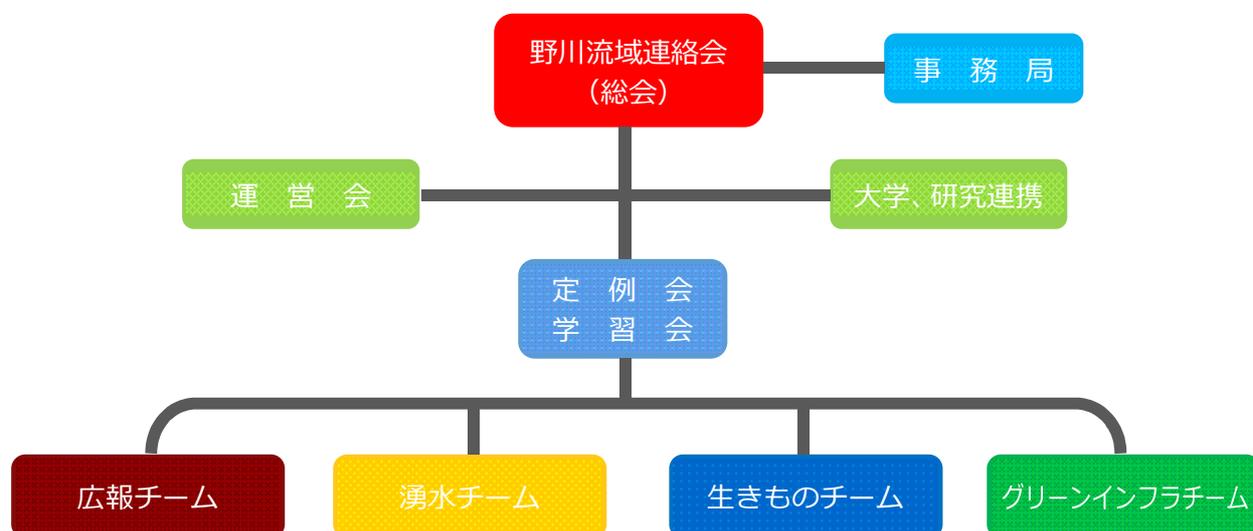
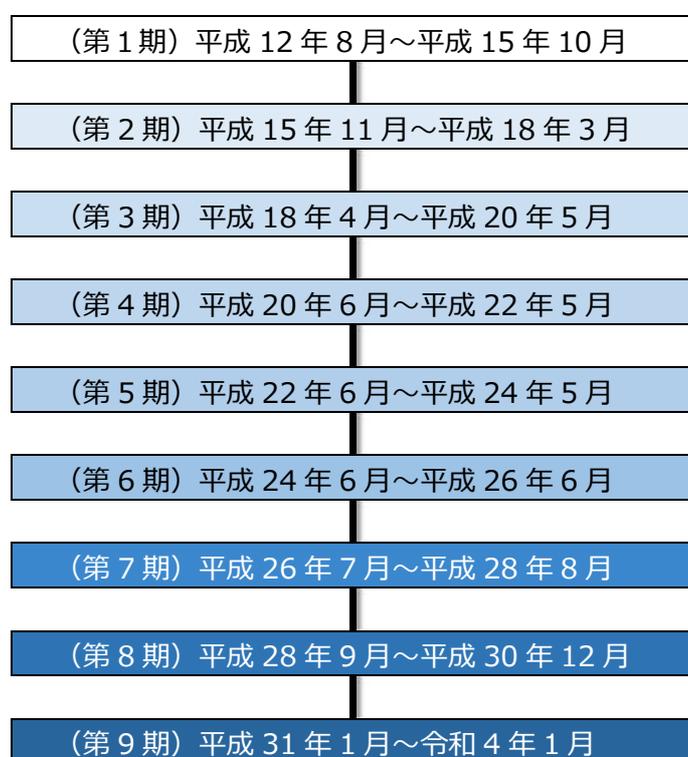
<u>野川流域連絡会について</u>	1
<u>第9期野川流域連絡会の活動状況</u>	
・平成31年～令和元年	2
・令和2年～令和4年	3
<u>総会の開催状況</u>	4
<u>定例会の開催状況</u>	5
<u>イベントの開催状況</u>	6
<u>運営会の開催状況</u>	7
<u>工事意見交換会の開催状況</u>	7
<u>各チームの活動状況</u>	
・生きものチーム	8
・湧水チーム	19
・グリーンインフラチーム	26
・広報チーム	27
<u>野川流域環境活動マップ</u>	28

野川流域連絡会について

野川流域連絡会は、当初、水量・水質・生きものの3分科会から始まり、第3期から水環境と生きものの2分科会となり、並行してなっとく部会が合流し、また別途研究部会も立ち上がり、第8期まで活動してきました。

現時点で積み上げられた成果がある一方で、2つの分科会が深掘れして分断され、交流が乏しくなるとともに、新規会員が定着しにくいなどの弊害も大きくなってきました。

このため、第9期では水環境分科会と生きもの分科会、なっとく部会を一体化し、「定例会・学習会」とし、有志参加による個々の活動は、4つのチームとして活動していきましました。



第9期野川流域連絡会の活動状況【平成31年～令和元年】

活動名称	開催年月日	活動内容
第1回総会	平成31年1月21日	第9期の運営方針についてのグループディスカッション
第1回工事意見交換会	平成31年2月26日	河床掘削工事の説明と意見交換
第2回合同運営会	平成31年2月26日	第9期の運営について
工事現場視察会	平成31年3月6日	河床掘削工事の施工区間の視察と意見交換
春季湧水調査	平成31年4月15日	春季湧水調査（日立中央研究所）
第2回工事意見交換会	平成31年4月23日	河床掘削工事の説明と意見交換
第1回定例会	平成31年4月26日	野川上流部湧水地視察と意見交換
第3回合同運営会	令和元年5月8日	第2回総会における討議の方向性について
第2回総会	令和元年5月17日	講演「大学生が感じる魅力、水辺の魅力」と第9期の活動内容について
第2回定例会	令和元年6月10日	生きもの観察会、今後の活動方針について意見交換
第17回野川の通信簿	令和元年7月1日	雨天のため、小金井南小の校内で実施
第3回定例会	令和元年7月8日	生きもの観察会、今後の活動方針について意見交換
夏季・生きもの観察会	令和元年8月4日	ほたる川の補修作業、生きもの採取・観察・解説
第4回定例会	令和元年8月19日	生きもの観察会の結果報告、今後の課題について意見交換
第5回定例会	令和元年9月9日	野川観察・学習会（野川上流域：国分寺市）※台風15号のため中止
第1回運営会議	令和元年9月18日	第9期の活動内容について（各プロジェクトチームの設立について）
第3回工事意見交換会	令和元年10月10日	河床掘削工事の説明と意見交換
第2回運営会議	令和元年10月15日	第3回総会における討議の方向性について
第3回総会	令和元年10月21日	第9期の活動方針、組織体制について
秋季湧水調査	令和元年11月2～4日	国分寺～小金井
第6回定例会	令和元年11月11日	秋季湧水調査結果報告、冬季・生きもの観察会について
第7回定例会	令和元年12月19日	国分寺市の湧水地の視察

第9期野川流域連絡会の活動状況【令和2年～令和4年】

活動名称	開催年月日	活動内容
冬季・生きもの観察会	令和2年1月19日	ほたる川の補修作業、生きもの採取・観察・解説
第8回定例会	令和2年1月20日	生きもの観察会結果速報、今後の組織体制について
第3回運営会議	令和2年1月27日	第4回総会における討議の方向性について
第4回総会	令和2年2月10日	プロジェクトチームの活動方針について
第9回定例会	令和2年3月9日	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
第18回野川の通信簿		新型コロナウイルス感染症の影響により中止
夏季・生きもの観察会		新型コロナウイルス感染症の影響により中止
第10回定例会	令和2年9月7日	リモート会議に向けてのアンケート結果等について
第11回定例会	令和2年12月7日	各チームの活動報告、第9期の委員の任期延伸について
冬季・生きもの観察会	令和3年1月17日	ほたる川の補修作業、生きもの採取・観察・解説（委員のみ参加）
第4回運営会議	令和3年2月8日	第5回総会におけるチーム活動の報告について等
第4回工事意見交換会	令和3年3月15日	野川河床整備工事（北その3）の意見交換会
第5回総会	令和3年3月22日	各チームの活動報告と今後の予定
第18回野川の通信簿		新型コロナウイルス感染症の影響により中止
第12回定例会	令和3年7月12日	各チームの活動報告
夏季・生きもの観察会		新型コロナウイルス感染症の影響により中止
湧水チーム グループ討議	令和3年8月4日	湧水調査データ公表方法など現状の課題や今後の方針についての討議を実施
第13回定例会	令和3年10月26日	各チームの活動報告と今後の予定
生きものチーム グループ討議	令和3年11月8日	ほたる川の補修、生きもの観察会の開催、ビオトープ候補地（来季）等についての討議を実施
野川流域環境活動マップ のお披露目会	令和4年1月13日	野川流域環境活動マップのお披露目
第5回運営会議	令和4年1月13日	第9期総会及び第10期総会の運営について
冬季・生きもの観察会		新型コロナウイルス感染症の影響により中止
第6回総会	令和4年1月31日	第9期の活動報告

総会の開催状況

第9期では、全6回の総会が開催され、流域連絡会の活動方針や各チームの活動状況について、協議・報告が行われました。

回数	開催年月日	開催内容
第1回	平成31年 1月21日	第8期の活動報告、座長・副座長の選出、第9期の運営方針についてグループディスカッションが行われました。
第2回	令和元年 5月17日	地域連携、大学連携の観点から学芸大学の吉富先生に講演「大学生が感じる魅力、水辺の魅力」をお願いしました。その後、第9期の活動内容、活動方針について、グループディスカッションが行われました。
第3回	令和元年 10月21日	東京都土木技術人材育成センターの川合さんに『小金井市域の崖線付近の地下水環境』をテーマに講演をしていただきました。その後、有志参加による個々のプロジェクトチームに分かれてグループディスカッションを行い、プロジェクトチームの活動イメージについて討議しました。
第4回	令和2年 2月10日	今まで総会、運営会議、定例会で話し合われた第9期の活動方針、組織構成についての経緯を報告しました。その後、「広報チーム」「湧水チーム」「生きものチーム」「グリーンインフラチーム」に分かれてグループディスカッションを行い、チームの活動方針等が発表されました。
第5回	令和3年 3月22日	新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、リモート会議で開催されました。今まで話し合われてきたチームの活動方針に沿って、各チームの活動状況が報告されました。また、任期が1年間延伸された今後の予定について、報告されました。
第6回	令和4年 1月31日	新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、リモート会議で開催されました。第9期の各チーム及び流域連絡会全体の活動報告が発表されました。



第9期第1回総会の様子



第9期第5回総会（リモート会議）の様子

定例会の開催状況

第9期では、全13回の定例会が開催を予定していましたが、台風19号や新型コロナウイルス感染症の影響で、全11回の開催となり、第10回からは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響のため、リモート会議で開催いたしました。

定例会では、流域連絡会の原点の一つでもある「フィールドワーク」として、野川上流部の湧水地の視察を、第8期までの分科会の垣根を超えて実施し、意見交換会を行いました。その他に、第9期の流域連絡会の活動方針、組織体制についての討議や生きもの観察会に関する意見交換、各チームの活動報告などが行われました。

回数	開催年月日	開催内容
第1回	平成31年4月26日	野川上流部湧水地視察と意見交換
第2回	令和元年6月10日	生きもの観察会、今後の活動方針について意見交換
第3回	令和元年7月8日	生きもの観察会、今後の活動方針について意見交換
第4回	令和元年8月19日	生きもの観察会の結果報告、今後の課題について意見交換
第5回	令和元年9月9日	野川観察・学習会（野川上流域：国分寺市）※台風15号のため中止
第6回	令和元年11月11日	秋季湧水調査結果報告、冬季・生きもの観察会について
第7回	令和元年12月19日	国分寺市の湧水地の視察
第8回	令和2年1月20日	生きもの観察会結果速報、今後の組織体制について
第9回	令和2年3月9日	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
第10回	令和2年9月7日	リモート会議に向けてのアンケート結果等について
第11回	令和2年12月7日	各チームの活動報告、第9期の委員の任期延伸について
第12回	令和3年7月12日	各チームの活動報告
第13回	令和3年10月26日	各チームの活動報告と今後の予定



第1回定例会の様子

【新次郎池、ひょうたん池（貫井神社）の視察】



第7回定例会の様子

【お鷹の道、真姿の池の視察】

イベントの開催状況

第8期まで水環境分科会の主催していた「野川の通信簿」は、流域連絡会の組織体制の変更に伴い、野川流域連絡会が主催することとなりました。第17回の当日は、雨天のため室内での講習となりました。また、「野川の通信簿」というコンテンツを流域に広げていきたいとの意見もあります。

第18回野川の通信簿は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止となりました。



第17回 野川の通信簿の様子

令和元年8月4日の夏季・生きもの観察会以降の開催は、生きもの分科会から野川流域連絡会が主催することとなりました。令和元年8月4日の観察会では、ほたる川にホタルが産卵したため、補修は行いましたが、生きもの採取は行いませんでした。令和2年1月19日に冬季・生きもの観察会も開催されましたが、令和2年の夏季・生きもの観察会は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止、令和3年1月17日に開催された冬季・生きもの観察会は、市民の参加応募は行わず、流域連絡会委員の有志のみで行いました。令和3年の夏季・生きもの観察会及び令和4年の冬季・生きもの観察会は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止となりました。



令和元年8月4日の夏季・生きもの観察会のようす



令和3年1月17日の冬季・生きもの観察会のようす

運営会の開催状況

第8期までは、「まとめ役会」として総会（旧全体会）の前にその進行をどうするか相談していましたが、これからは、総会をどのように進行するのかということではなく、定例会で何をするのかを検討するための会として、名称を「運営会議」に改め、座長、副座長の他にだれでも参加できるようにします。



第1回運営会議のようす：会を設立する目的や会の名称について話し合いました



第4回運営会議のようす：リモート会議で開催され、第5回総会に向け、各チームの活動状況について話し合われました。

工事意見交換会の開催状況

平成31年2月と3月に野川の河床掘削工事についての説明会と平成30年度に工事が終了した第二建設事務所管内の工事現場と、平成31年に施工予定の北多摩南部建設事務所管内の工事現場の視察が行われました。

その後、平成31年4月、令和元年10月に北多摩南部建設事務所管内の野川河床掘削工事の説明とそれに伴う「生物救出作業」の方法等について話し合われました。

さらに令和3年3月15日にリモートで開催された野川河床整備工事（北その3）に関する意見交換会では、工事が完了した1工区について、施工時に、カワセミの営巣が確認されたため、それに対応するための護岸の構造を検討した等の報告がありました。



野川河床整備工事（北その3）の説明資料（R3.3.15）



意見交換会のようす（R3.3.15）

各チームの活動状況

生きものチーム

活動状況

活動項目	実施年月日
生きものチーム グループ討議	令和2年8月24日
生きものチーム リーダー会	令和2年9月26日
ビオトープ候補地調査	令和2年11月9日
冬季・生きもの観察会	令和3年1月17日
生きものチーム グループ討議	令和3年11月18日
ほたる川補修作業	令和3年12月27日

活動報告

生きものチーム活動報告（1）

活動日時：令和2年8月24日18時から20時

活動場所：北多摩南部建設事務所 別棟2階

活動方法：対面会議

参加人数：6名

活動目的：今後の活動について

活動内容：

- ・以下の意見が出されました。
 - ①ほたる川に続く第2のビオトープをつくる
 - ②観察会の継続性を検討する（冬の観察会をどうするか）
 - ③広報チームと連携をとる
 - ④生きものガイドブックを使ったオンラインセミナーを開催する
 - ⑤生きもの観察のウォーキングコースを何パターンか提案する
 - ⑥野川の工事について流連としての関わり方を考える

生きものチーム活動報告（1）

この話し合いを受けて9/26にリーダー会（出席者3名）で活動の方向性を決定し生きものチームメンバーに報告しました。

<決定事項>

①**新たなビオトープ**の候補地を探すにあたり、第一、第二調整池の既存のビオトープや野川公園内を現地調査し、それをもとに他の場所でのビオトープの可能性を探り、候補地を持ち寄って検討を進める。

②**冬の生きもの観察会**は、生きものチーム有志で生息種の確認程度の観察会を行い、ほたる川の杭の状況を見て、補修が必要かどうか判断する。

③**広報チームとの連携**し、生きものチームで行う活動について発信してもらう。

④**生きものガイドブック**を使っのオンラインセミナーについては、ガイドブックの活用は観察会とセットで行うことが望ましいので、今後も検討していく。

⑤**生きもの観察のウォーキングコース**については、どんなコース設定がいいのか、例えばカルガモの子育て時期や営巣情報などは、生物保護の観点から外したほうがいいのかなどの検討をし、メンバーの居住地域を中心にコースを提案してもらう。

⑥**野川河床整備工事**について流連としての関わり方を考える

工事が始められている狛江・調布、その上流域のメンバーが、世田谷のメンバーから生物多様性の観点から工事計画にどんな意見を言い、実現させてきたかなどのお話を聞く機会を設ける。

生きものチーム活動報告（2）

活動日時：令和2年11月9日
13時30分から15時30分

活動場所：野川公園、武蔵野公園（第一、第二調整池など）

活動方法：現地調査

参加人数：3名

活動目的：新たなビオトープの候補地となる条件を探る。既存のビオトープ調査。
ほたる川の状況確認。

活動内容： <野川公園内の候補地調査>

1. 野川公園内かがみ池放水口

調査時の水量は多かった。

河川敷は広いが、下流に向かって勾配が高くなっているため、水を流すのに工夫が必要。



野川公園内かがみ池放水口

生きものチーム活動報告（2）

2. わき水広場放水口

放水口から野川への落差が大きい。わき水広場につながるには魚道をつくるなど大きな工事が必要。



わき水広場放水口

3. かしのき橋下流

河川敷が狭く、ピオトープをつくっても野川の流量が増したときに壊される可能性がある。



かしのき橋下流

4. どじょう川ピオトープとその付近

水がほとんど流れていない。その上流部の河川敷に水がしみだして広い範囲で湿めっているが、湧き水の放水口はない。

生きものチーム活動報告（2）

<ピオトープ候補地を見つけるためポイント>

- ・湧水が流れ出ている
- ・水路が流れるための適当な河川敷がある
- ・越流汚水の混じる雨水の排出口から離れているなどが考えられる。

<既存のピオトープ調査>

◆第一調節地 自然再生事業として長年にわたるピオトープづくりが行われている

- ・田んぼ・・・1年中水を張ることで生物の棲み処になっている
- ・取水口・・・ここからピオトープ内に生物が侵入。 ・そのそばの魚道・・・改修が必要。
- ・その他、深池、どじょう池、丸池、第二調整池の草地を見学。

保全活動をする人、利用する人など様々な人のかかわりの中でピオトープづくりが今も進められていることを改めて知る機会となった。

生きものチーム活動報告（2）

<ほたる川の状況確認>

- ◆放水口下の池の一部と、櫻橋下あたりの個所が決壊し本線へ流出している。
また、下流部で杭のない箇所が複数あった。



<平井さんによる野川ビオトープ候補地調査>

- 第一回 9/14 新次郎池放水路から富士見大橋までの7か所
- 第二回 2/14 富士見橋下から仙川との合流点までの9か所の調査報告が出されています。

生きものチーム活動報告（3）

活動日時：令和3年1月17日
10時から12時

活動場所：野川自然観察センター付近の野川とほたる川

活動方法：現地調査

参加人数：5名

活動目的：冬季生きもの調査

活動内容：
・ほたる川の流路補修作業（杭打ちと破損箇所への土のう積み）
・野川本川とほたる川の生物調査

(次ページ以降に活動状況写真、調査結果等を掲載)

生きものチーム活動報告（3） 活動状況写真

ほたる川の補修



野川本川での生物採取



生きものチーム活動報告（3） 調査結果

野川本川

生物名	個体数
ホトケドジョウ	2
シマドジョウ	1
タモロコ	29
カワムツ	2
カワリヌマエビ属	430
アメリカザリガニ	3
ヨコエビ	1
カワニナ	11
シジミ属	4
シロタニガワカゲロウ	7
ヒラタドロムシ	2
ガガンボ科	1
ハグロトンボ	1
イトミミズ	1
種類数計	14
個体数計	495

ほたる川

生物名	個体数
カワリヌマエビ属	35
アメリカザリガニ	3
カワニナ	3
オニヤンマ	1
シオカラトンボ	1
シロタニガワカゲロウ	1
コガタシマトビケラ	2
オナシカワゲラ	3
フタツメカワゲラ属	1
センブリ属	2
ガガンボ科	16
種類数計	11
個体数計	68

生きものチーム活動報告（４）

活動日時：令和3年11月18日
10時から12時

北多摩南部建設事務所 地下（リモート）会議室

活動方法：WEB 会議及び対面方式併用

参加人数：6名

活動目的：今後の活動について

活動内容： ①ほたる川の補修工事について
・ほたる池からの湧水を受けるため、池のコンクリートが壊れている箇所は、梅雨になる前に業者によるコンクリート工事が必要。
・高水敷の池の前のコンクリートがえぐれているので、高水敷の造成が必要。
・水路の杭が乱杭になっている。杭を打って、土を詰めれば元通りになる。

→この話し合いを受け、令和3年12月27日に団体委員1名と北多摩南部建設事務所職員3名にて、ほたる川の補修作業を行った。

②冬季（1月）生きもの観察会について
・コロナ対策をした上で参加者を一般募集することにし、当日の流れや役割分担などを決定した。（新型コロナウイルス感染症が拡大したため、生きもの観察会は中止した。）

生きものチーム活動報告（４）

③ピオトープ候補地について

・来期へ継続する活動として、コロナが落ちつくまではそれぞれで、自分の拠点での野川を観察し、コロナが終息した後、候補地を持ち寄り、プレゼンして候補地を決めることとした。

④その他

・観察会で魚類や鳥類が減っていたが他の場所ではどうか、コイにパンを上げている人への対応、河床工事予定の場所で野川では珍しいニホンウナギが観察されたこと等について話し合った。



会議風景

生きものチーム活動報告（4）



ほたる川補修作業（令和3年12月27日）



ほたる川補修作業完了後（令和4年1月23日）

野川ビオトープ候補地調査（第1回） 令和2年9月14日

1. 新次郎池放水路(野川放水口)

放水口と野川には落差があり、生きものは上りにくい。
水路の上流側にも落差がある。
魚道整備により新次郎池と野川につながる可能性がある。
池からの水路には多くのサワガニがいる。



2. 弁天橋上(貫井弁天湧水放水口)

湧水量は安定しているが、河川敷が低く狭いため、
小川の造成・維持は難しい。



3. 弁天新橋下(貫井弁天放水口)

20年ほど前、河川改修の際に作られた初めての
ビオトープ。
河川敷が低いため、高水をかぶりやすく、現在は
池や水路が壊れ、水路は上流側に開いている。
下流側の水路(写真右)に水はあるが埋まっている。



4. 美術の森湧水放水口(小金井新橋上)

湧水量は少なく、漏れることもある。
河川敷は狭い。



野川ビオトープ候補地調査（第1回）

令和2年9月14日

5. かがみ池放水口

水量はやや不安定。
河川敷は広い。



6. 湧き水広場放水口

水量は安定しているが、野川との落差が
大きい。



7. 富士見大橋

水量は安定。
以前は水深50cm程度埋の深みがあり、ナマズの産卵も
見られたが、土砂の堆積が進んで浅くなった。



参考 1. ほたる川の池(写真左)

湧水を受ける池が破損している。
早めの修理が必要。



2. 第一調節池取水堰の魚道(写真右)

魚道上のプールの縁が急角度であるため、
流水が滝落ととなり、魚が上りにくい。
魚道下のプールを作ることも含めて、
改良が必要。



野川ビオトープ候補地調査（第2回） 令和3年2月14日

1. 富士見橋下(通称出山下湧水)

湧水量は安定して多い。下流側にある民地の湧水と合わせて一部を貯水し、野川公園のホタルの里にポンプアップしている。湧口は野川公園内にあり、民地の湧水も合わせて、一体的な整備が望ましい。

上左:湧水湧口 上右:湧口下の湧水池
下左:湧水水路 下中:湧水放水口
下右:御狩野橋上出山下の風景



2. 三鷹大沢の里

湧水を活用し、ワサビ栽培や田んぼを営んでいた農家と三鷹市、市民が協力してホタルや田んぼを中心とした大沢の里を保全している。野川のビオトープづくりには、大変参考になる。湧水は何十年も前にほぼ枯渇し、現在は地下水をポンプアップしているとのこと。

上左:ホタルの水路(上流側) 上右:ホタル池
下左:旧わさび田 下右:大沢の里放水口



3. 飛橋下右岸

高水敷が削られ、垂直な護岸が長年維持されている。高水敷に1mほど土盛りをして、護岸の下部を保護すれば、カワセミが営巣できるかもしれない。



4. 国立天文台のホタル自生地

天文台の湧水には野川産ホタルが自生しているといわれている。50年以上前から地元の方が湧水周辺の環境保全ボランティアを続けておられる。湧水出口の河川数は広い。

左:湧水池からの放水 中:水路
右:湧水放水口



野川ビオトープ候補地調査（第2回）

令和3年2月14日

5. 深大寺からの湧水

遠く深大寺からの湧水は、住宅地の中、狭い開渠を流れるためビオトープ化はかなり難しい。水量は多いが、野川との段差は大きい。

左:湧水水路 右:湧水放水口



6. 佐須用水

都立農業高校の農場から湧水が流れる佐須用水。下流にある田んぼや水田に活用されている。水路の上流にはミクリが自生し、田んぼにはニホンアマガエルとホウネンエビが、田んぼ脇の水路にはホトケドジョウが生息している。

上左: 水路上流側 上右: 水路下流側

下: 田んぼと水路



7. おかね橋上の深み

落差工と蛇籠による護床工事により、下流側に流れの変化による深みが作られている。直線的な野川に多様な水深と環境変化を作るヒントになると思われる。



8. 雁追橋下、林野庁の湧水

林野庁宿舎から流れ出る湧水。放水口下は水路化されているが、上流側水路は住宅地や道路の下を流れる暗渠になっている。



9. 仙川との合流点

仙川の合流点に大きな落差があり、野川とのつながりは遮断されている。いくつかの落差工と魚道を仙川にセットバックして造成すれば、合流改善できる可能性がある。



湧水チーム

活動状況

活動項目	実施年月日
春季湧水調査	令和2年4月
秋季湧水調査	令和2年9月～11月
春季湧水調査	令和3年4月
秋季湧水調査	令和3年10月
湧水チーム グループ討議	令和3年8月4日

活動報告

湧水チーム活動報告（1）

活動時期：2020年4月（春 渇水期） 2020年9月～11月（秋 豊水期）	活動場所：国分寺市から調布市までの野川流域の湧水
活動方法：現地調査(水量、水質、生き物、植物)	参加人数：春 2名 秋 のべ31名
活動目的：野川流域の湧水地点の水量、水質の測定および生きもの等の記録の蓄積	
活動内容：	<ul style="list-style-type: none">・ 湧水量の測定 (流れ幅のある地点はフロートにより測定、採水可能な地点は採水により測定)・ 水質の測定（極力湧水地点に近いところで測定） 測定項目 水温、pH、電気伝導度(EC)、溶存酸素(DO)、(気温)・ 生き物調査 周囲の植物の記録 水生生物の記録 <p>(次ページ以降に活動状況写真、調査結果等を掲載)</p>

湧水チーム活動報告（1） 湧水地点一覧

地区名	調査地名	地点名	
国分寺	日立中央研究所	ます池 東	
		ます池 西	
		小池	
		はけの湧き水	
		西側の森 東	
		西側の森 西	
	国分寺周辺	国分寺	
		ムクノキ湧水	
		真姿の池湧水	
		リオン下	
	殿が谷戸庭園	殿が谷戸庭園	
	東経大_新次郎池	湧水口1	
		湧水口2	
		湧水口3	
		湧水口4	
		橋下パイプ	
	小金井	貫井神社	貫井神社湧水
			北側湧水
		滄浪泉園	橋の湧水
			西側湧水
流出口			
スカイコーボ横		スカイコーボ横	
T邸		T邸湧水	
はけの森美術館		はけの森美術館湧水	
ICU			
野川公園	赤池		
	ぼたるの里		
	ぼたる川		
	ひょうたん川		
	湧水広場_西 湧水広場_東		
三鷹	東八道路南	檜の木橋	
		泉橋	
		泉橋下流	
		相曾浦橋（野川流入口）	
	大沢わさび田		
	天文台下	東側	
		西側	
	調布	深大寺	五大尊池湧水
			山門横_不動の滝
			釈迦堂東_池_出口
延命観音_下			
水源湧水			
不動堂_龍の口			
都立農業高校	神代農場		
中央高速下	中央高速下		

湧水チーム活動報告（1） 活動状況写真

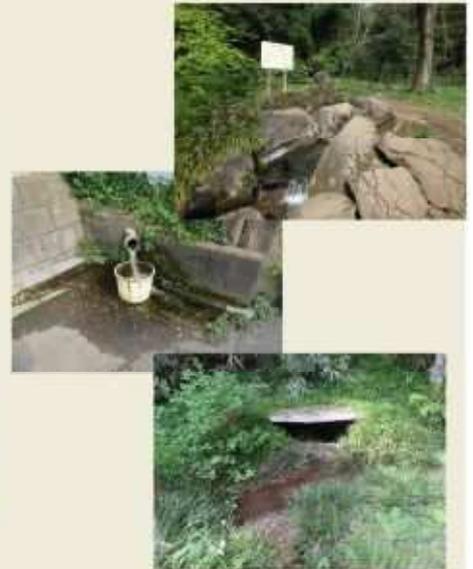
春の湧水調査



2020年 春



2018年 春



湧水チーム活動報告（1） 活動状況写真

秋の湧水調査



湧水測定 2019年秋 参考



湧水チーム活動報告（1） 調査結果(一部集約および抜粋)

	日立中央研究所	真姿の池湧水群	貫井神社	野川公園内	天文台下	深大寺湧水群
調査日	11月27日	10月27日	10月3日	10月4日	10月25日	10月25日
気温 (°C)	12.0~13.0	15.5~16.0	22.0	20.0~23.0	19.0	14.5~16.0
水温 (°C)	16.8~17.4	17.0~17.4	17.4	17.3~17.8(18.6)	16.9~17.1	16.7~17.3
EC (mS/m)	16.6~20.5	17.1~20.0	20.2~20.3	14.7~21.6	19.0	19.1~20.7
pH	6.0~6.4	5.8~7.0	5.6~5.8	5.8~7.2	7.2~7.4	6.0~7.0
DO (mg/L)	6.8~7.7	5.8~9.0	6.5~7.5	7.1~9.7(3.0)	8.9~9.3	6.1~8.1
湧水量 (L/sec) ^{0.1m²断面}	2.6~35.1 (>79.7)	4.4~24.5 (44.8)	2.3~10.0 (12.3)	0.2~97.8 (150.5)	0.7~0.9 (1.6)	3.0~37.6 (74.2)
生きもの	ミズムシ、プラナリア、スジエビ、サワガニ、カクツツビケラ、オニヤンマ(幼体)ほか <u>オオタカ</u> ※	カワニナ、ミズムシ、サワガニ、シマアメンボ、ウキゴリ属sp、ホウライシダほか	ヒョウモンチョウ、シマアメンボ、カワニナ、ヒル、オニヤンマ(幼体)、線虫類、セキショウ ほか	カワニナ、カワリヌマエビ属sp、ウルマーシマトビケラ、ハグロトンボ、シマアメンボ ほか	調査せず	オニヤンマ(幼体)、サワガニ、プラナリア、シマアメンボ、アメリカザリガニほか

水温、EC、DOの測定に際し、一部測定機器の測定値の互換性確認のため同型機種2機にて測定を行った。(東京都機材、みずとみどり研究会機材)
pHについては、バックテスト(BTB)とハンディ機による測定も行い測定値の誤差確認を行った。

湧水チーム活動報告（２）

活動時期：2021年4月（春 湧水期）
2021年10月（秋 豊水期）

活動場所：国分寺市から調布市までの野川流域の湧水

活動方法：現地調査(水量、水質、生き物、植物) 参加人数：春 のべ20名 秋 のべ29名

活動目的：野川流域の湧水地点の水量、水質の測定および生きもの等の記録の蓄積

- 活動内容：
- ・ **湧水量の測定**
(流れ幅のある地点はフロートにより測定、採水可能な地点は採水により測定)
 - ・ **水質の測定**（極力湧水地点に近いところで測定）
測定項目 水温、pH、電気伝導度(EC)、溶存酸素(DO)、(気温)
 - ・ **生き物調査**
周囲の植物の記録
水生生物の記録
- (次ページ以降に活動状況写真、調査結果等を掲載)

湧水チーム活動報告（２） 湧水地点一覧

地区名	調査地名	地点名
国分寺	日立中央研究所	ます池 東
		ます池 西
		小池
		はけの湧き水
		西側の森 東
	西側の森 西	
	国分寺周辺	国分寺
		ムクノキ湧水
		真姿の池湧水
		リオン下
	殿が谷戸庭園	殿が谷戸庭園
	東経大_新次郎池	湧水口1
		湧水口2
		湧水口3
湧水口4		
橋下パイプ		
小金井	貫井神社	貫井神社湧水
		北側湧水
	滄浪泉園	橋の湧水
		西側湧水
		流出口
	スカイコーボ横	スカイコーボ横
	T邸	T邸湧水
	はけの森美術館	はけの森美術館湧水
	ICU	
	野川公園	赤池
ぼたるの里		
ぼたる川		
ひょうたん川		
湧水広場_西		
湧水広場_東		
三鷹	東八道路南	榎の木橋
		泉橋
		泉橋下流
		相曾浦橋（野川流入口）
	大沢わさび田	
	天文台下	東側
		西側
	調布	深大寺
山門横_不動の滝		
釈迦堂東_池_出口		
延命観音_下		
	水源湧水	
	不動堂_龍の口	
都立農業高校	神代農場	
中央高速下	中央高速下	

湧水地点の見直しを要する

湧水調査風景



水量測定



水質測定



水生生物採取

生きものの記録



オニヤンマ ヤゴ



スジエビ



カワリヌマエビ属の一種



ハグロトンボ ヤゴ



フタツメカワゲラ 幼体



ホトケドジョウ

湧水チーム活動報告（２） 調査結果(一部集約および抜粋)

	日立中央研究所	真姿の池湧水群	貫井神社	野川公園内	天文台下	深大寺湧水群
調査日	未調査	4月3日	4月10日	4月11日	4月17日	4月17日
気温(°C)		18.0~20.5	12.5	14.0~18.0	16.5	14.5~16.0
水温(°C)		16.7~17.4	17.3	12.4~18.0	13.9~15.8	14.0~15.0
EC(mS/m)		18.46~19.53	21.1	16.6~19.2	18.3	19.2~20.4
pH		6.0~7.6	6.0	6.2~7.6	7.2~7.4	6.0~6.8
DO(mg/L)		6.3~9.8	7.9	7.2~9.7	8.3~9.3	6.6~9.0
湧水量 (L/sec) _{0内総量}		0.8~5.1 (24.6)	6.1 (6.1)	0.3~6 (8.7) 湧水地点多数	0.1~0.2 (0.3)	0.7~11.4 (21.2)
生きもの		カワニナ、ミズムシ、サワガニ、シマアメンボ、フタメカワゲラ ほか	シマアメンボ、カワニナ、ウズムシ、コカゲロウ ほか	カワニナ、カワリヌマエビ属sp、シロタニガワカゲロウ ほか	調査せず	オニヤンマ(幼体)、サワガニ、シマアメンボ、アメリカザリガニ ほか

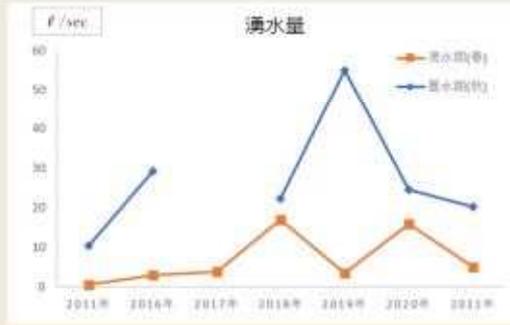
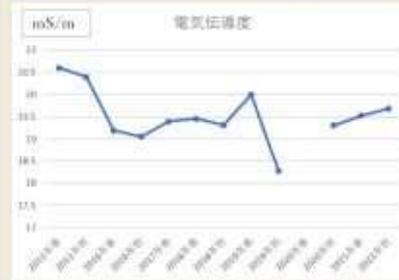
水温、EC、DOの測定に際し、一部測定機器の測定値の互換性確認のため同型機種2機にて測定を行った。(東京都機材、みずとみどり研究会機材) pHについては、バックテスト(BTB)とハンディ機による測定も行い測定値の誤差確認を行った。

湧水チーム活動報告（２） 調査結果(一部集約および抜粋)

	日立中央研究所	真姿の池湧水群	貫井神社	野川公園内	天文台下	深大寺湧水群
調査日	10月22日	10月31日	10月16日	10月10日	10月23日	10月23日
気温(°C)	10.0	12.0	20.5	21.0~24.5	19.5	15.0~18.5
水温(°C)	16.3~17.6	16.7~17.5	17.5	17.3~18.8(19.3)	16.7~16.9	16.9~17.4
EC(mS/m)	20.5~27.2	16.7~20.0	19.2	17.0~20.8	19.7~20.2	18.0~19.6
pH	6.0~7.8	6.0~6.8	6.0	6.2~7.0	7.0	6.1~6.6
DO(mg/L)	8.0~13.2	5.6~9.5	7.2~7.9	5.2~9.8	11.7~12.9	6.9~11.8
湧水量 (L/sec) _{0内総量}	24.0~132.7 (>305)	1.9~20.2 (35.9)	6.0~21.5 (27.5)	0.2~97.8 (136.9)	0.1~3.8 (3.9)	3.0~37.6 (53.1)
生きもの	ミズムシ、シマアメンボ、スジエビ、ガガンボsp、サワガニ	カワニナ、ミズムシ、コオニヤンマ、カワゲラ、スミウキゴリ ほか	サワガニ、ミズムシ、カワニナ、ヒル	カワニナ、カワリヌマエビ属sp、ウルマーシマトビケラ、ハグロトンボ、シマアメンボ ほか	調査せず	オニヤンマ(幼体)、サワガニ、ウズムシ、シマアメンボ、アメリカザリガニ ほか

水温、EC、DOの測定に際し、一部測定機器の測定値の互換性確認のため同型機種2機にて測定を行った。(東京都機材、みずとみどり研究会機材) pHについては、バックテスト(BTB)とハンディ機による測定も行い測定値の誤差確認を行った。

湧水チーム活動報告（2） 経年データ（真姿の池湧水について）



2011年は流量計による測定
 2019年秋調査は台風19号の後
 2020年春は新型コロナにより測定を中止
 写真より湧水量を予想した数値

グリーンインフラチーム

活動状況

活動項目	実施年月日
グリーンインフラ・ジャパン都市雨水チームへの参加	令和2年11月6日(金)～8日(日)

活動報告

活動方法：リモート会議

参加人数：2名

グリーンインフラチーム活動報告(1)

活動時期：令和2年11月6～8日

活動場所：全国ZOOM会議（GIJ都市雨水チームに参加）

活動方法：リモート会議

参加人数：2名

活動目的：グリーンインフラ・ジャパン都市雨水チームにZOOMで参加

- 活動内容：
- ・全国会議、会議最初のシンポとして「涌井史郎さんと中村桂子さんの対談」を企画、委員2名にて二子玉川区立公園旧清水邸で、お二人の対談の録画
 - ・都市雨水チーム、全国実装例の一つとして野川のG I 実装例を動画で発表

グリーンインフラチーム 今後の予定(1)

活動目的：「崖線フォーラム」の復活(提案)

- 活動内容：
- 15年ぐらい前になりますが、国分寺崖線に関する自治体が持ち回りで、「崖線フォーラム」なるものを開催しておりました。
- 世田谷区、国分寺市、小金井市の順番で3回開催したところで、中断してしまいました。
- 崖線そのものだと各自治体や住民団体のつながりがなかったのも、中断中の一因と考え、GIという切り口で流連ベースで再開出来るのではと考えます。

グリーンインフラチーム 今後の予定(2)

活動目的：「野川中心のGI実装か所見学会」

- 活動内容：
- アンケートでも教えていただいている、区市内のGI実装例の見学会の実施。
- (公共交通機関では回りにくいので、どうしてもマイクロバスになってしまい、コロナ終了後を予定して居ります。

広報チーム

活動状況

活動項目	実施年月日
野川流連メーリングリストの作成 野川流連のHPの作成活動	令和2年末頃～令和4年3月

活動報告

広報チーム活動報告（1）

活動時期：2020年末頃～現在

活動場所：主にメール

活動方法：メールによる情報共有

参加人数：4～5名位

活動目的：野川流連（など）のHPの活性化

活動内容：

- ①野川流連メーリングリストで発信できるようになったので活用していきたい。
- ②野川流連のHPについて、「都河川部計画課」の方と意見交換をさせていただく機会をいただきました。HPの作成については継続中です。
- ③広報チームとして不定期に広報を発信していきたい。

野川流域環境活動マップ

野川流域環境活動マップは、野川流域連絡会に所属する団体による環境活動を紹介し、流域のみなさんにその現状を知ってもらう目的で、東京学芸大学 吉富研究室（中城美優、吉富友恭）により作成されました。

作成にあたって、野川流域連絡会では、次の6つの団体がアンケート調査やヒアリング調査に協力しました。

- ・みずとみどり研究会
- ・身近な川を見守る会
- ・せたがや野川の会
- ・野川のハケと森の会
- ・水みち研究会
- ・くじら山下原っぱを考える連絡会



デザイン：本間由佳



野川流域連絡会の活動内容や活動場所を可視化し、団体間において共有するとともに、市民に向けて活動を広くアピールするための資料として、今後この環境活動マップの活用が期待されます。



みずとみどり研究会

【設立年】1998【活動地】田代町

水と緑を総合的・広域的に保全し、水循環のバランスのとれたまちづくりをめざし、志識や資識、立場の異なる個人が協同作業を敬み重ねて活動を行っています。

調査調査

【調査項目】水循環実地
【活動場所】高梁水郷
【活動時期】年2回



水質調査

【調査項目】水質
濁水調査・EC、DO、pH
本川・COD等
【活動場所】高梁水郷
【活動時期】年2回



生物調査

【調査項目】水生生物、植物
【活動場所】各調査地点
【活動時期】年2回



身近な川を見守る会

【設立年】1988【活動地】田代町

野川の生物や水質から環境の変化を調査し、野川の自然環境を保全しています。

河原調査

【調査項目】川原、水質、気象
【活動場所】田代町下の野川本流
【活動時期】年2回



清掃活動

【活動場所】田代町上下流
【活動時期】年2回



生物調査

【調査項目】水生生物
【活動場所】田代町下流段、野川本流と湧水が流れるポイント
【活動時期】年2回



※EC：電気伝導率
DO：溶存酸素量
COD：化学的酸素消費量



せたがや野川の会

【設立年】2005【活動地】新田町

三田谷トラスト運動に賛同し、田代谷区を流れる野川を活動の拠点として、野川の自然と河川環境を保全しています。

水質調査

【調査項目】水質、pH、DO、COD、溶解酸素量など
【活動場所】野川水郷橋
【活動時期】年2回



環境調査

【調査項目】河川環境
【活動場所】野川水郷橋
【活動時期】年4回
(水生生物、濁水、植物)



清掃活動

【調査項目】河川
【活動場所】高梁川下流段、野川橋上下流
【活動時期】毎月1回
(2月、8月を除く)



野川のハケと森の会

【設立年】1999【活動地】新田町、新田町、新田町

ハケの森と野川の自然に親しみ、楽しむ。自然環境の保全につなげます。

清掃活動

【活動場所】河川立寄～上野田橋
赤野川近くの緑地4丁緑地
(ハケの森等)
【活動時期】10月の月1回と年2回



環境調査

【調査項目】野川水郷橋、新田町、野川橋
【活動場所】小立立橋～上野田橋
【活動時期】年2回



水みち研究会 (不定期)

【設立年】1988【活動地】田代町

湧水、地下水の保全を目的としています。

【活動場所】赤野川水郷橋、高梁水郷
【活動時期】各調査地点を中心に調査実施



くじら山下原っぱを 考える郷議会 (休止中)

【設立年】1985【活動地】小室町

現在凍結されている第三運動池の計画が再び進展した場合に活動できるよう、団体を存続させています。

【活動内容】第三運動池の計画せとらっば原っぱの地に開く活動
【活動場所】新田町運動公園(くじら山下原っぱ)



問合せ先

東京都建設局 北多摩南部建設事務所 工事第二課 工務担当

住所 〒183-0006 東京都府中市緑町 1-27-1

電話 042-330-1845 FAX 042-369-3890

Email S0200212@section.metro.tokyo.jp